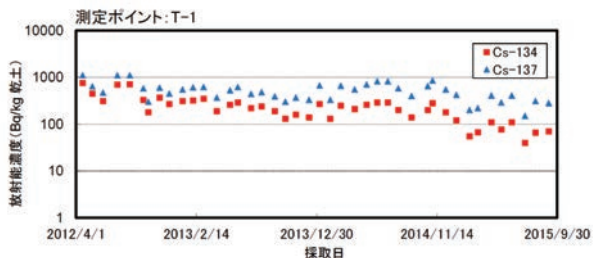


## 海洋のモニタリング 海底土濃度の推移

### 福島県沿岸の海底土の放射能濃度の推移



### 福島県沖合の海底土の放射能濃度の推移



震災後から平成27年9月30日まで

原子力規制庁ウェブサイト放射線モニタリング情報から作成

セシウムが付着した土壌は川を經由して沿岸まで運ばれます。

東京電力福島第一原子力発電所事故から1年経過した時点では、土壌の放射性物質の濃度も下がりました。

陸地近くの沿岸の海底土を乾燥させて測定した結果、セシウム134、セシウム137は1,000ベクレル/kgありましたが、事故から2年後には、セシウム137は500ベクレル/kgと半減し、セシウム134は200ベクレル/kgと5分の1になりました。

陸地から40km沖合(測定ポイントM-C1)の海底土の放射能濃度は、事故当時100ベクレル/kgに上昇しましたが、1年後には10ベクレル/kgまで下がりました。(関連ページ: 上巻P159、「海洋中の分布」)

本資料への収録日:平成26年3月31日

改訂日:平成28年1月18日